

[004]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://doi.org/10.15017/4795160>

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 4, 2022-07-22. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



巻頭言

コロナ禍における附属環境工学研究教育センターの活動



センター長 藤光 康宏

2022年度より2年間、附属環境工学研究教育センター長を仰せつかりました。どうぞよろしく願いいたします。

附属環境工学研究教育センター研究活動報告は、今回の発行で第4号となります。内容は2021年度の当センターの活動ですが、2020年度から引き続いてのコロナ禍の中、センター所属の教職員は多くの制約を受けながらの研究活動となりました。2020年度の研究活動報告となる第3号においては、「5-2-3. 国外における調査記録」の記載自体がありません。グローバル課題、インターフェース課題、ローカル課題の3つの研究ハブに属する8つの研究ユニット全てで海外への渡航ができなかったためです。2021年度につきましても、少なくとも私が所属する研究ユニットでは、教職員による国外における調査は実施できませんでした。一方で、オンラインによる活動の記載が多く見られ、移動ができない、会うことができないという状況の中で、代替手段を模索する様子がうかがえます。このように、研究活動報告の第3号と第4号はコロナ禍における悪戦苦闘の記録となっています。2020年度と2021年度の2年間をセンター長として当センターの舵取りされました島岡隆行先生の、普段とは異なる苦労は想像に難くありません。

2022年度は、世の中がウィズコロナに舵を切りはじめました。アフターコロナはまだ遠いのかもかもしれませんが、コロナ禍で大きく制限されてきた研究教育活動、特に人的交流につきまして、少しずつでも活発になることを強く願っています。

加えて、2022年度は附属環境工学研究教育センターが設置されてから5年目となります。3つの研究ハブの下にある各研究ユニットが掲げる13の研究課題全てが5年の時限の最終年度となることから、本センターの規定により初めての評価を実施して、継続についての判断を行うこととなります。この評価により当センターの柱である「急速な環境変化に即応する研究活動の実施」を実現するとともに、持続的な社会の構築に寄与する研究教育活動により一層取り組む所存です。皆様方におかれましては、当センターの活動に対するさらなるご支援を賜りたくお願いする次第です。よろしくお願い申し上げます。